鉱長を激しく追及

各支部で抗議大会と時限スト

遠藤分会長不当解雇に対する闘いは、無記名投票の結果四月二十五日にスト権を確立して、二十七日第一次行動の実力行使指令が発せられた。二十八日の抗議大会の日、さきに会社が申請していた立入禁止の仮処分が決定し、三川鉱正門、北門に掲示されたが、この悪らつなやり方に憤つてこの日の抗議大会は大きな高まりのなかでおこなわれ、とくに三川支部では主婦会が激励したり、一番方、二番方は入昇坑時に鉱長室におしかけ、安田鉱長をするどく追及する場面もあつた

立入禁止を掲示

四月二十八日各支部では入昇坑時昼休みを利用して、一齊に抗議大会をひらいた。

この日、会社が二十二日裁判所におこなつていた「遠藤分会長の立入り禁止の仮処分申請」が午前一時三十分に決定し、ただちにこの日の掲示が三川鉱正門、北門にあげられた。

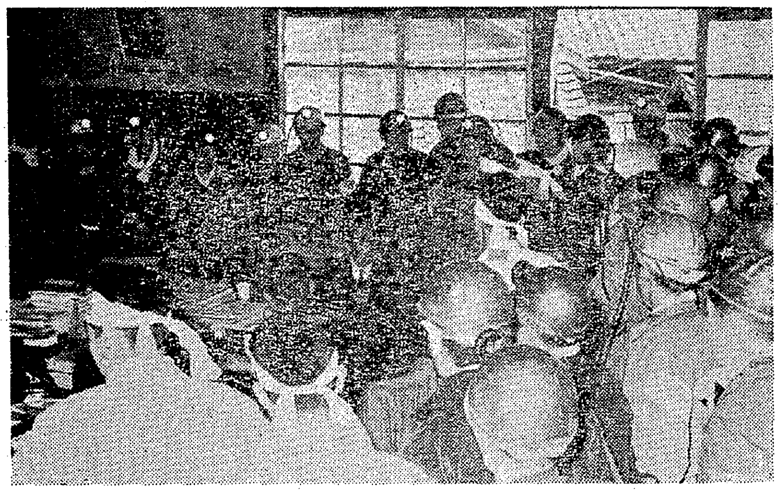
三川支部ではとくにこの日の抗議大会には組合員の憤満が爆発し、常一番は昼休みを利用して繰込場で抗議大会をひらき、つづいて一番方の入坑前、二番方の昇坑後ぞくぞくと抗議大会をひらいて、解雇撤回を誓いあつた。

主婦も大会を激励

前日まで組合員に守られて入坑していた遠藤分会長は、この日は組合で待期、同分会の二番方の人たちは立入り禁止の掲示に怒りをもやしながら、全員スクラムを組んで組合前から鉱長室までデモを敢行、はるばる野添、緑ガ丘からかけつけて、抗議大会を激励にきた主婦たちに見守られながら、坑内着に着替えて鉱長室にデモをかけ居合わせた安田鉱長、次長らを囲んで「会社がおこなつた遠藤分会長解雇は不当もはなはだしい。遠藤さんを入坑させないならわれわれも入坑しない」と追及した。

「遠藤さんの首を切つたのは私だとこの場でみんなに言明しろ」と激しく追及。いつもは職制に辯立つた口を開いたこともない人たちも、この日ばかりはこらえきれないとばかり、つぎつぎと発言し「保安の問題に関してはどんな状態の中でも組合員からの質問には回答する」と鉱長に確約させ、この日は執行部の処置にまかせて入坑した。

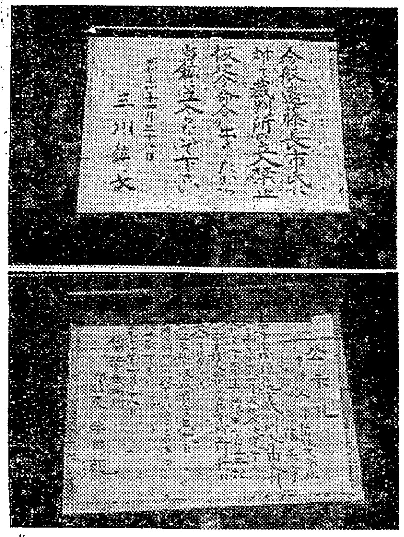
だが、つぎつぎとひらかれる抗議大会のデモは、ぞくぞくと鉱長室にデモをかけ、ついに安田鉱長は姿をクラましてしまい、次長がこれにあたるほどの激しい高まりのなかに、抗議大会がおこなわれたジリジリと照りつける初夏の太陽は、じつとしていても汗ばむほどの好天気のなかで、子供を背おつた主婦もまじる激励は、さいごまでつづけられていつた。



鉱長室にデモをかけ追及をつづける

（上）三川で行つた常一番の抗議大会

（下）主婦もかけつけて抗議大会を激励



変な妥協はするな

抗議大会を終つた組合員のAさんは

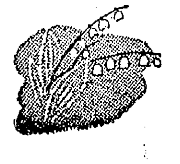
ほんとにこんどほど真剣になつていることはありません。何としてもこの闘いには勝ちぬかねばなりません。長期の闘いでやらねばむつかしいなら、それでもよいから撤回まで頑張る執行部は変な妥協はしないでもらいたい。

また野添から激励にきた中年の主婦も

職場分会長のやつたことは分会の総意でやつたのでしょう。それを分会長だけ〃首を切る〃とはあんまりです。不当解雇をハネかえすまでみんな闘つていかねばなりません。

と怒つていた。

五月二日は一時間五十分の時限ストライキが整然と各支部でおこなわれた。大牟田・荒尾市議、市長では、組織の力がいかんなく発揮され、圧倒的な勝利で選挙戦がおわつたが、これが反映してか各職場では明るい表情でこの時限ストをむかえ、自信たつぷり闘いは必ず勝ちぬけるの気ハクがあふれていた。（写真・立入禁止の掲示）



三川美術展を観て

森 啓 助

三川支部美術サークルでは第五回三川美術展を四月二十七、二十八日の二日間三川鉱館でひらいた。同サークルでは発足いらいデツサンの勉学に励んでいるが、美術展ははやくも第五回をかぞえている三川支部森啓助氏はつぎの稿をよせてきた。

× × ×

三川鉱館において、四月二十七二十八の両日、第五回三川美術展がひらかれた。今回は油絵展のように、自分のもつ芸術上の課題が画面の上に押し出されてくるというようなものでなく、デツサン展という、むしろ基本的な画法の訓練といつたような性質のものであるから、観賞の上からいえば、ある意味ではさびしかつたが、作画上の秘密を知るためにはよい機会であつた。

姉川氏の作品は三点ともパステル画であるが、従来の色彩過剰からくる印象の混乱を防ぎ、なかんずく「船」は抽象風にまとめた密度の高い作品である。

村山氏の「教会のある風景」は彼の的確な透視画法に捉えられたスキのない作品だ。一方「街路」は建物を抽象風な構成に仕立てて初秋の季節感を描出している所など、意欲的な自己脱皮を試みて成功している。

永石氏の「風景」は、窓を通してみられる恐らくは炭住街の風景だが、あまりにも俳句的でさびており、炭住街のもつあらゆる意味での逞しいエネルギーに欠けている。

西村氏の作品は三点とも阿蘇に取材しているが、従来の甘さがふつきれて明るい精気を帯びたものとなつている。山の線が固いのは惜しいが、その意味では外輪山がよく描けているように思う。

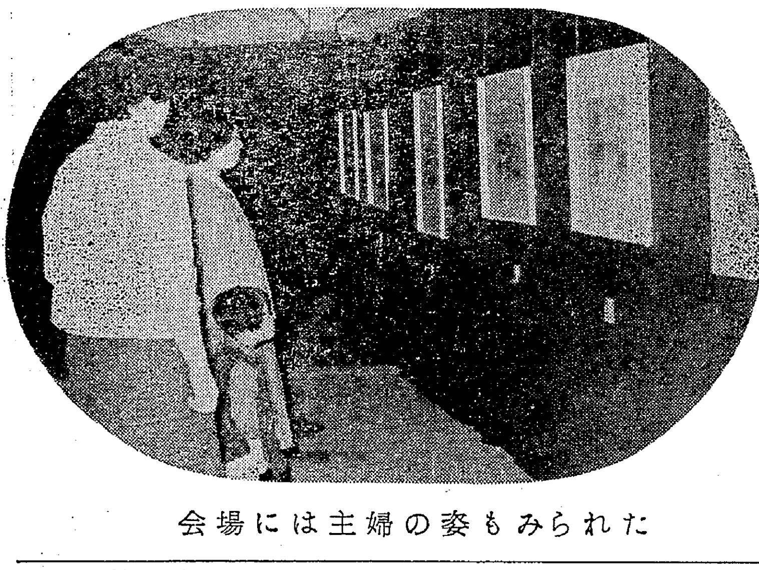
渕上氏の「花」はずさんだ。「校庭」の幼稚な表現形式にみられる単純な明るい美しさをもつと追つて欲しかつたし、左の建物のいいかげんな線跡は反省すべきではないだろうか。

武松氏の作品は二点ともメルヘン風な画法で描かれているが、出来ばえからいえば、根子岳の方が数等すぐれている。石膏デツサンでは森氏の角柱体がよく、スキのない立体構成の美しさは机上に映る影の効果と共にみずみずしい感じを与える。

永石氏の面取像は一応きれいに描けているが、物と影の把握のしかたに根本的疑念がある。

荒木氏は未熟ではあるが、未熟さを恥じず、新人らしい大胆な表現で好感がもて、今後が期待される。

最後に、三川美術サークルも、その発展の推移のなかで幾多の困難や衰微に見舞われたが、やはり何といつてもサークルの発展に刺戟を与えるものは展覧会である。そうした意味でも今回のデツサン展を機会に今後なお一層の努力を願いたい。



会場には主婦の姿もみられた

私の日記【4】

平和の願い

楓町 TS生

一九五九年一月一日 晴

子供たちの声に起され……地域分会主催の祝賀式にのぞんだ組合旗の上に日の丸が掲げられているのが気になつてしようがなかつた。地域分会の行事の時位日の丸は遠慮すべきではないかと思う。日の丸は私たち人民の生活と生命をうばうためにどれだけ支配者たちが利用してきたか、日の丸によつては生活は守れない。私たちにめしとはしを保障してくれるものは赤旗なのだ。無理のない手段をつくして日の丸はできるだけあげないようにすべきではないかと思う。とくに現支配層たちの露骨な戦争政策と反動化の中では注意すべき問題である。しかしいつかは人民自身が自らの国旗をかかげる日がくるだろうことを信じている。

一月三日 曇後雨

久しぶりに姉がきていたが「失業と戦争に反対する大行進」に参加するために早朝出発した市役所前の大会を終えて約三百名の一隊である。倉永をすぎるとき百五十名。船小屋を経て八女まで約七里ぐらいだろう。

行進の途中で昨日ソ同盟が月ロケツトを打上げたニュースを知つた。同時にキューバーの反米革命のニュースも……いま全世界の人々が注目しているだろう宇宙への偉大な人類の第一歩を、心から人類の巨大な進歩として期待に胸ふくらませている人間が圧倒的多数だろう。ごく少数の帝国主義グループたちはなんとかして不成功を祈つているだろう。

宇宙月ロケツトが成功。資本主義体制が音を立ててくずれ去るのが実感が伴つて想像されるようだ。人類最後の階級社会が一年一年終末に近づく時代、すばらしい時代に生存するよろこびを感じる。

一月四日 曇初雪

朝からロケツトへの関心を絶ちがたくニュースに注意する。順調に進んでいるという中間ニュース……午後一時頃テレビのニュースは臨時ニュースで月附近七千五百粁を通過し、太陽にむけ進行中と告げ、アイゼンハワーまで人類最初の月への道を切開いたとして祝辞を送つている。やむを得ない苦しい祝辞であつたろう。

これからアメリカはますますあせるであろうし、反面平和勢力の中に決定的な戦争を阻止する物質的な力が保障された意味で私は心から万才を叫び、ソ連の科学者、労働者に祝意を表さずにはいられなかつた。

三人の子供たちがそばで笑つている。それにつけても私は考える。

いま私たち大人が、青年が、みんな一人ひとりの力は小さくてもその小さな力でも出しあつて力を集めるならば、戦争をなくすることができる歴史の時点にあること、戦争を起すも起させないもすべてわれわれ人民大衆とくに労働者階級の肩にかかつていることを自覚せずにいられない。そのために、まず日本から外国軍隊を追い払い独立を勝ちとろう。

子供たちはいま大人が何をやつているかを……やがて歴史によつて知るであろう……。

闘争と同志愛

班員が家事一切を引受く

企反闘争、平和闘争と闘争の主体がまつたく地域にもちこまれ、地域の機構はあげて寧日ない多忙をきわめた。

その中心である地域の闘争委員は家事をかえりみることなく闘つてきたが、その中にはうるわしい同志愛の花が咲いている。

話は去る三月二十二日、桂町地域分会長神月畳太さんのお母さん神月ハルさん（七四）が卒中で倒れ人事不省の日が数日続いたときのことだつた。

神月さんは桂町の地域闘争委員長であるとともに、Bブロックの平和闘争の最高責任者として、当時寝食を忘れて闘争態勢確立を急いでいた時だつただけ、神月さんの心労はなみたいていではなかつたところが神月さんの居住区の班では、班長の芝尾さんが十六名の班員と話し合い「神月さんは重要な仕事があるので、仕事に専念してもらい、神月さんのお母さんの面倒は班で見よう」ということで、入院をはじめ、家事一切の面倒を見ることにした。このため神月さんは、連日企反闘争から平和闘争さらには不当解雇反対問題に対して、おそくまで闘争推進にあたることができた。

このことについて神月さんは、

遠い親せきより近い他人という言葉がありますが、こんどほど身にしみて感じたことはありません。おかげで企反闘争、平和闘争が心おきなく闘えました。これも班の方々の組合運動に理解ある協力があつたればこそと感謝しております

と語つていた。（緑ガ丘発）

松川闘争、最終段階へ

無罪要求大行進など

松川事件対策協議会（会長広津和郎氏）は六月と予想される最高裁判決にむかつて最終段階の運動をもりあげようと次のような行動方針をきめた。

▼無罪判決要求集中大行進

関東六地点から行進をおこし、判決日に最高裁前に到着する。

(1)沼津班 (2)甲府班 (3)前橋班

(4)宇都宮班 (5)水戸班 (6)銚子班

▼現地調査

第一次＝五月九・十・十一日。

第二次＝十六・十七・十八日。

約千名が参加する予定。

▼特別資金カンパ

三百万円を目標とする。